

ヘミングウェイで学ぶ英文法 正誤表 978-4-86639-280-6 (2019年6月5日更新)

『ヘミングウェイで学ぶ英文法』の内容に誤りがございました。
謹んでお詫び申し上げますとともに、下記のように訂正させていただきます。

第1刷の訂正箇所

P.16 下線⑨の位置

- 〈誤〉 L.034 ⑨ She liked the way he felt about being a hotel-keeper.
 〈正〉 L.035 ⑨ She liked the deadly serious way he received any complaints.

P.16 英文の抜け

L.035 She liked the deadly serious way he received any complaints.の後に、She liked his dignity.という1文が抜けております。(朗読音声も修正を進めております)

P.28 上から6行目

- 〈誤〉「ある方向へ向けて進んでいる」 〈正〉「ある動作が進行中、まだ終わっていない」

P.33 ⑫の答えおよび解説

〈誤〉強調構文の it です。 〈正〉前方照応の代名詞です。
これに伴い、同ページ下から7行目～4行目の解説を以下のように修正いたします。

まず、it = 「傘を差してくれた人」と考えることができますね。つまり、このitは前方照応の代名詞(1)であり、「誰かが傘を差してくれた」→「それは部屋係のメイドだった」と言う流れになります。もう一つの可能性として、以下に示すように、この文を強調構文(4)と捉えることもできます。

P.34 上から2行目

- 〈誤〉そして、メイドがここで強調されている意味も読み取ってみましょう。
 〈正〉しかし、ここでは文脈的に「メイド」を強調するのは不自然なので、やはりitは代名詞だと考えるのが妥当です。

P.91 上から6行目

- 〈誤〉 a purgative と同じ役割を果たしているのですから、
 〈正〉 主語を叙述用法の形容詞として修飾しているのですから、

P.91 上から8行目

- 〈誤〉「名詞的用法」 〈正〉「形容詞的用法」

P.202 下線④の位置

- 〈誤〉 L.007 ④ His adjutant sat at another table. 〈正〉 L.007 ④ The major sat at a table against the wall.

P.225 上から7行目

- 〈誤〉 横たわり、なぜだか下半身に自らの手を置いています。
 〈正〉 横たわっており、なぜだかピニンの顔と手をなめるように見つめています。

P.307 行方昭夫先生の著書名

- 〈誤〉『英文解説術』 〈正〉『英文快読術』